

2024 年度さくらねこ無料不妊手術事業

一般枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2024 年度は 2,977 名の個人(一般枠)、37 団体、355 の行政と協働し、50,288 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 17,077 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 1,606 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 30,482 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,123 頭(うち犬 0 頭)

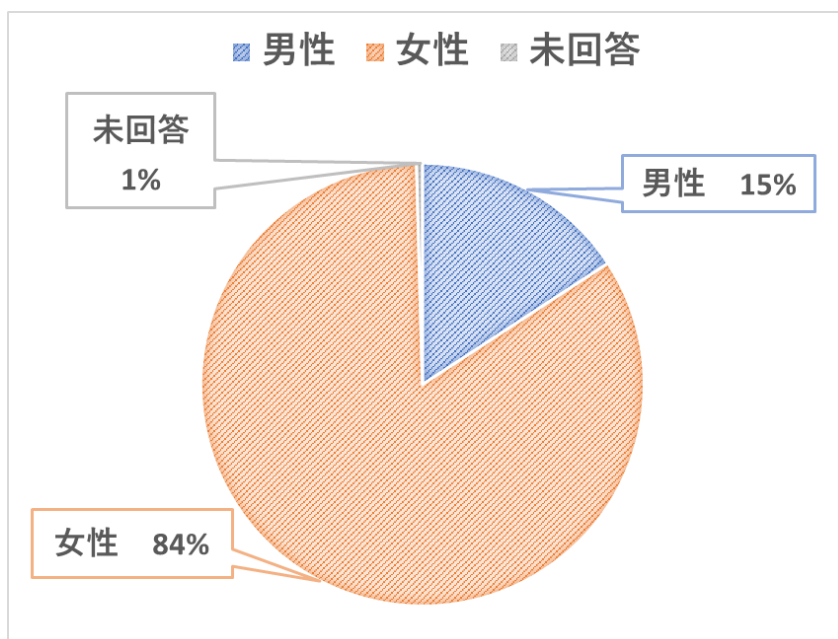
無料不妊手術実施頭数 総合計 : 50,288 頭

(各実施数は 2025 年 4 月 30 日時点の集計による)

1. 一般枠ボランティアの属性

一般枠ボランティアとは、「さくらねこ無料不妊手術事業」に登録している協働ボランティアのうち、行政枠、団体枠に属さない個人ボランティアを指す。2025 年 3 月 31 日時点で 9,961 名が登録している。

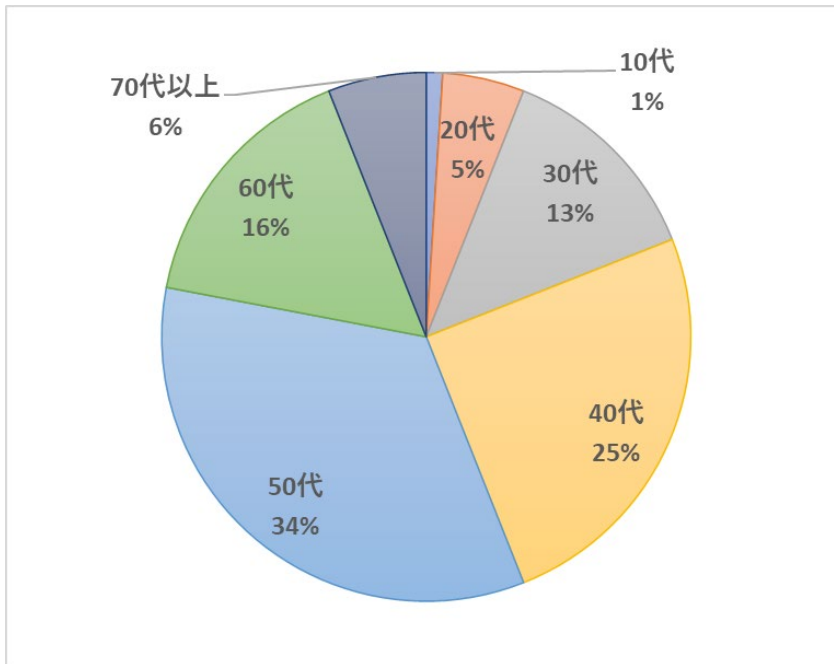
【一般枠ボランティアの男女比】



男 性 : 1,575 名
女 性 : 8,343 名
未回答 : 43 名

登録者数は 2023 年度より 1,947 名増加しているが、8 割強が女性という比率は事業開始当初からほとんど変化していない。

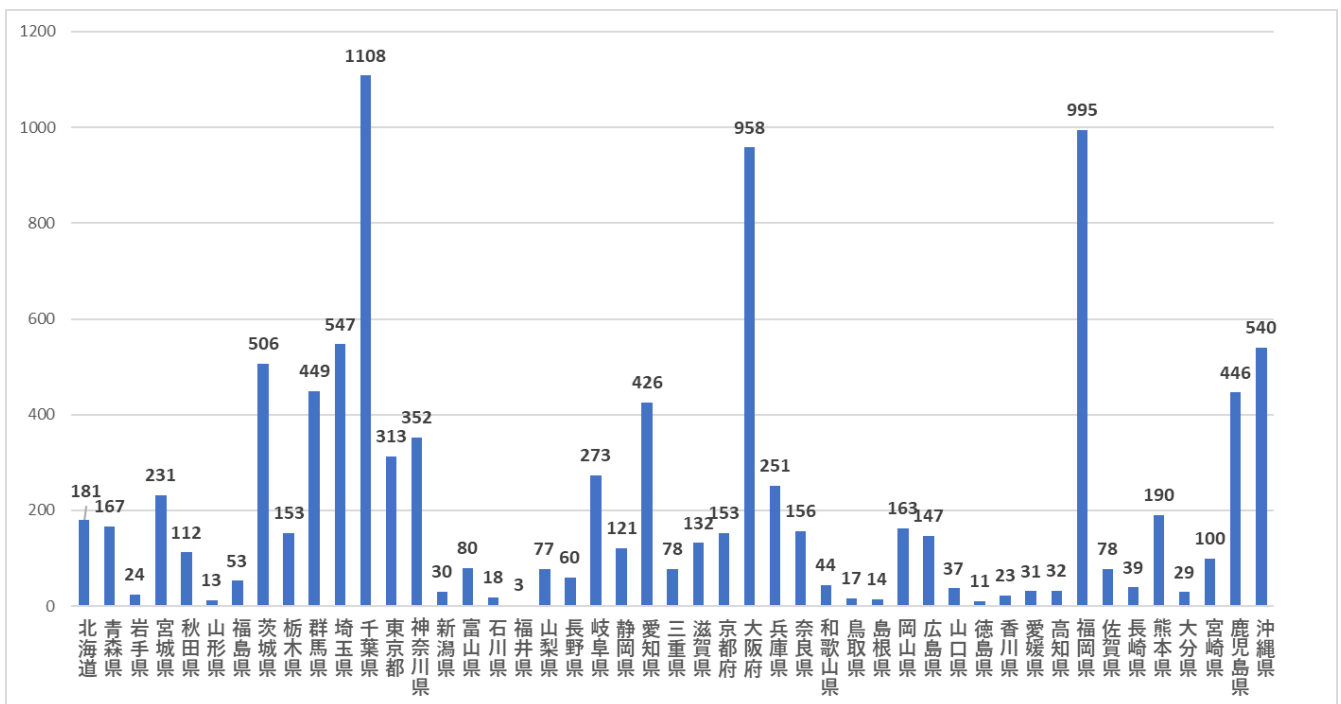
【一般粋ボランティアの年代】



10代： 4名
 20代： 535名
 30代： 1,281名
 40代： 2,458名
 50代： 3,481名
 60代： 1,593名
 70代以上： 609名

40代以上が81%を占めており、20代以下はわずか6%である。若年層の参加が進まず、ボランティアの高齢化が進んでいることが分かる。

【一般粋ボランティアの居住地域（都道府県）】



都道府県別では千葉県が1,108名で最も多く、福岡、大阪と続く。地方別では関東エリア在住のボランティアが34%と最多、次いで九州・沖縄エリアが24%、関西エリアが17%となっている。関東エリアと関西エリアは他のエリアと比較して協力病院の数も多く、TNRの先進地域であると言える。

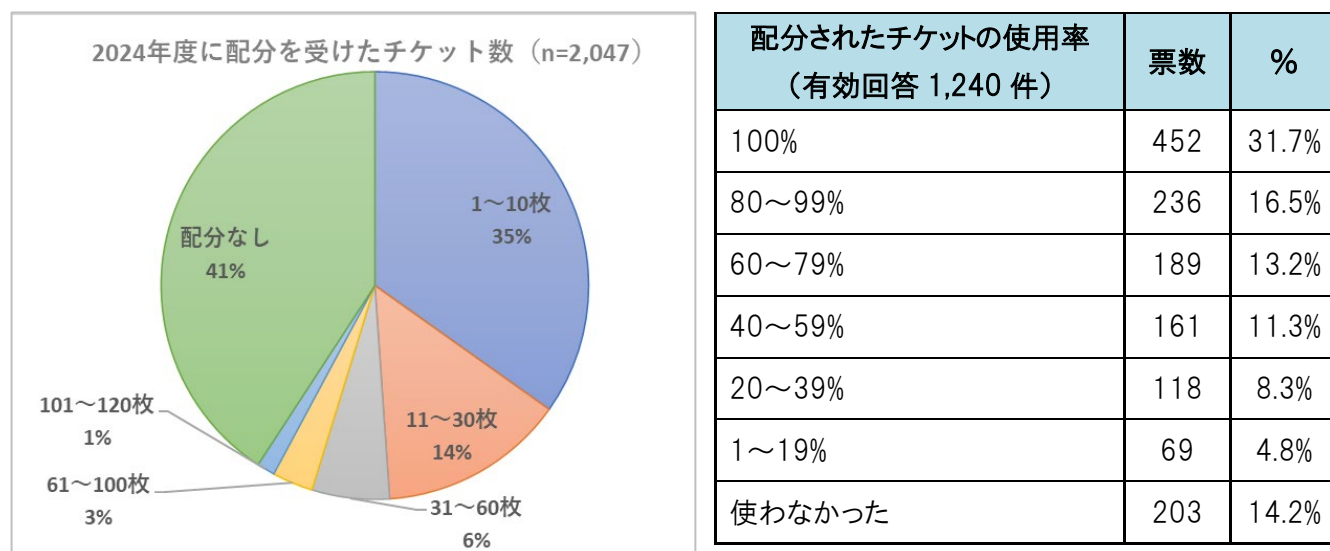
2. アンケート対象者

2025 年 3 月 31 日時点で「さくらねこ無料不妊手術事業」の一般枠ボランティアとして登録している 9,961 名を対象に 2024 年度のさくらねこ TNR についてアンケートを実施した。2024年度は 9,961 名中 2,977 名がさくらねこ無料不妊手術チケットを申請している。

- アンケート対象となる一般枠マイページ登録者数(2025 年 3 月 31 日) 9,961 名
- 2024 年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 2,977 名
- アンケート有効回答数 2,047 件(マイページ登録者数 9,961 名中)

3. アンケート結果

3-1. 無料不妊手術チケットの配分、使用状況について



アンケートに回答した 2,047 名のうち、59%にあたる 1,240 名がチケットの配分を受けており、配分された枚数は年間で「1~10 枚」が最多であった。配分されたチケットの使用率をみると、48.2%のボランティアが配分されたチケットの 80%以上を使用している。その一方、配分されたチケットを「使わなかった」と回答したボランティアは 1 割を超え、未使用の理由としては、猫が捕獲できなかった、協力病院の予約が取れなかった、対象の猫がいなくなった、病気等で保護に切り替えた等が挙げられた。

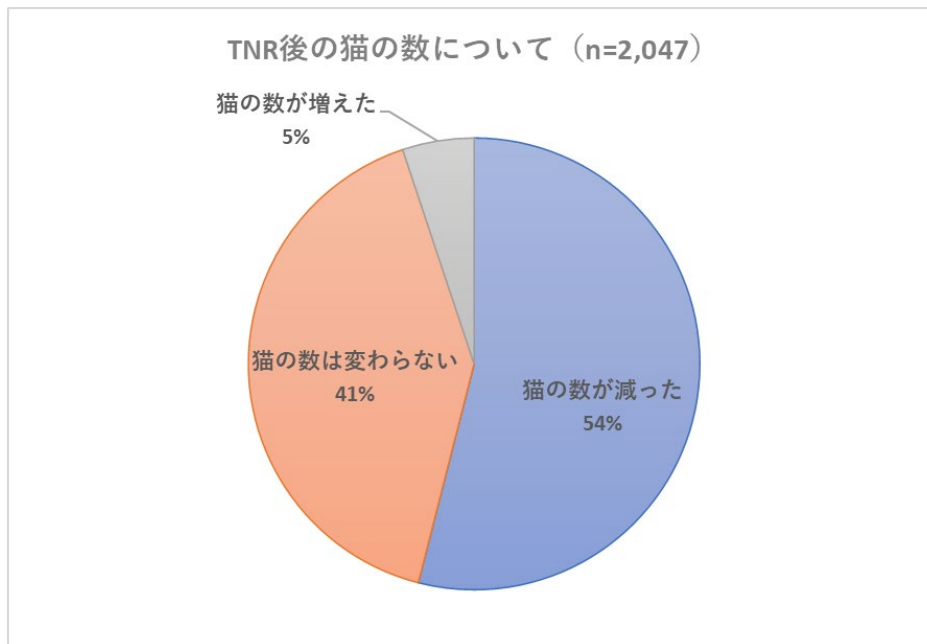
3-2. 活動地域について

TNR を行った猫がいるのは、行政(市町村)に地域猫活動地域として公式に認められた地域ですか	票数	%
はい	193	6%
いいえ	1854	94%

行政が地域猫活動を認めていない地域で活動するボランティアが圧倒的に多く 90%を超えている。環境省が推奨し、多くの自治体が基準としている従来の「地域猫活動」がいかに現実からかけ離れたものであるかがこの数字に表れている。

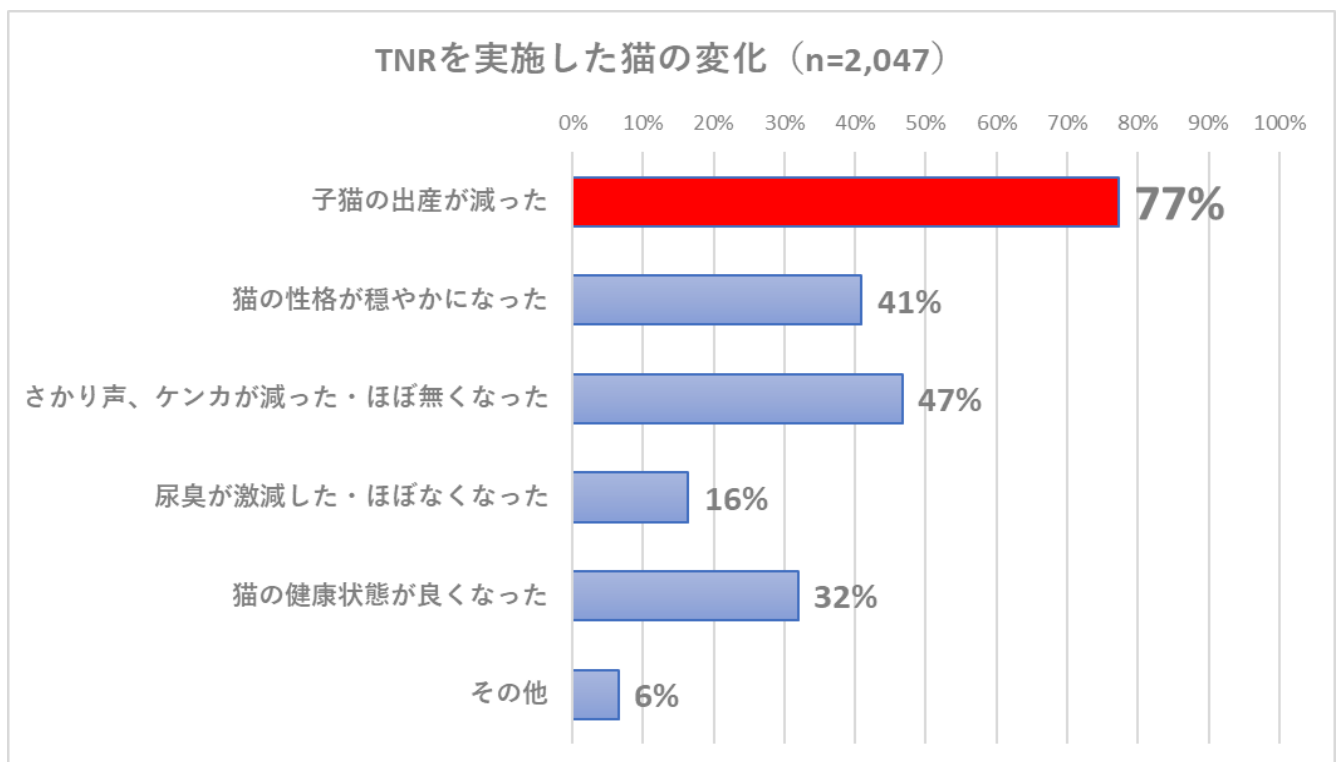
3-3. TNR 後の猫の状態と頭数の変化について

■ TNR 後の猫の頭数について



5%が「猫の数が増えた」と回答した。TNR を実施しているにも関わらず猫が増える理由としては、不妊手術が追い付かず未手術の猫が出産してしまう、新たに猫が遺棄される、他の地域で餌をもらえなくなった別の猫が流入する等が考えられる。

■ TNR を実施した猫の変化(複数回答)

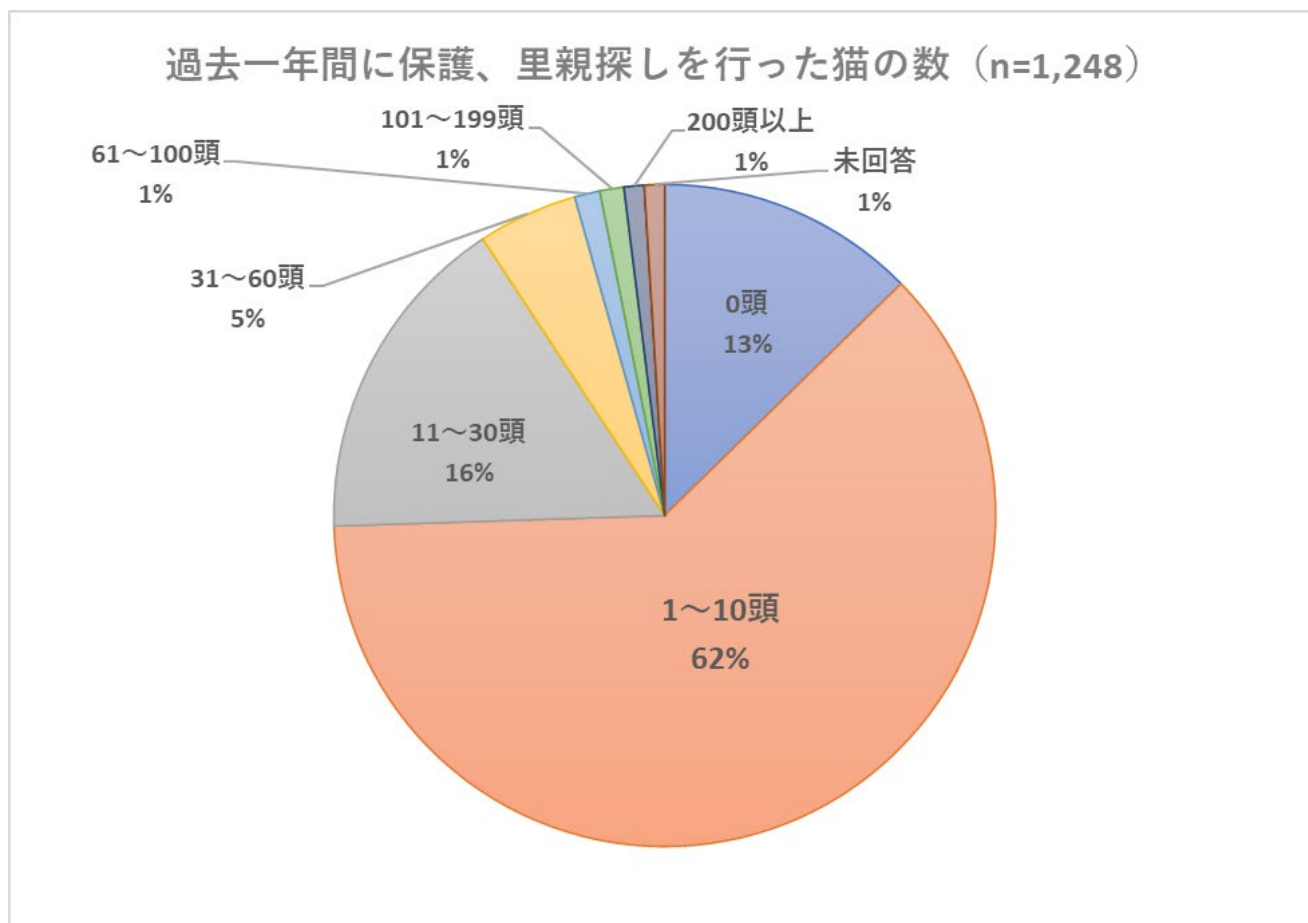


TNR 後に感じた猫の変化として最も多く挙げられたのは「子猫の出産が減った」であり、TNR の最大の目的である繁殖抑制の効果を 8 割近くのボランティアが実感していることが分かる。苦情の原因になりやすい鳴き声については半数近くが減ったと回答しているほか、健康状態や性格面でも良い変化がみられる。臭いについては 16%にとどまったが、TNR が進んでいくことでさらなる改善が期待できる。「その他」の回答では、「交通事故死が減った」「ゴミ捨て場を荒らすことがなくなった」という報告が多く見られた。

3-4. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	1248	61%
いいえ	799	39%

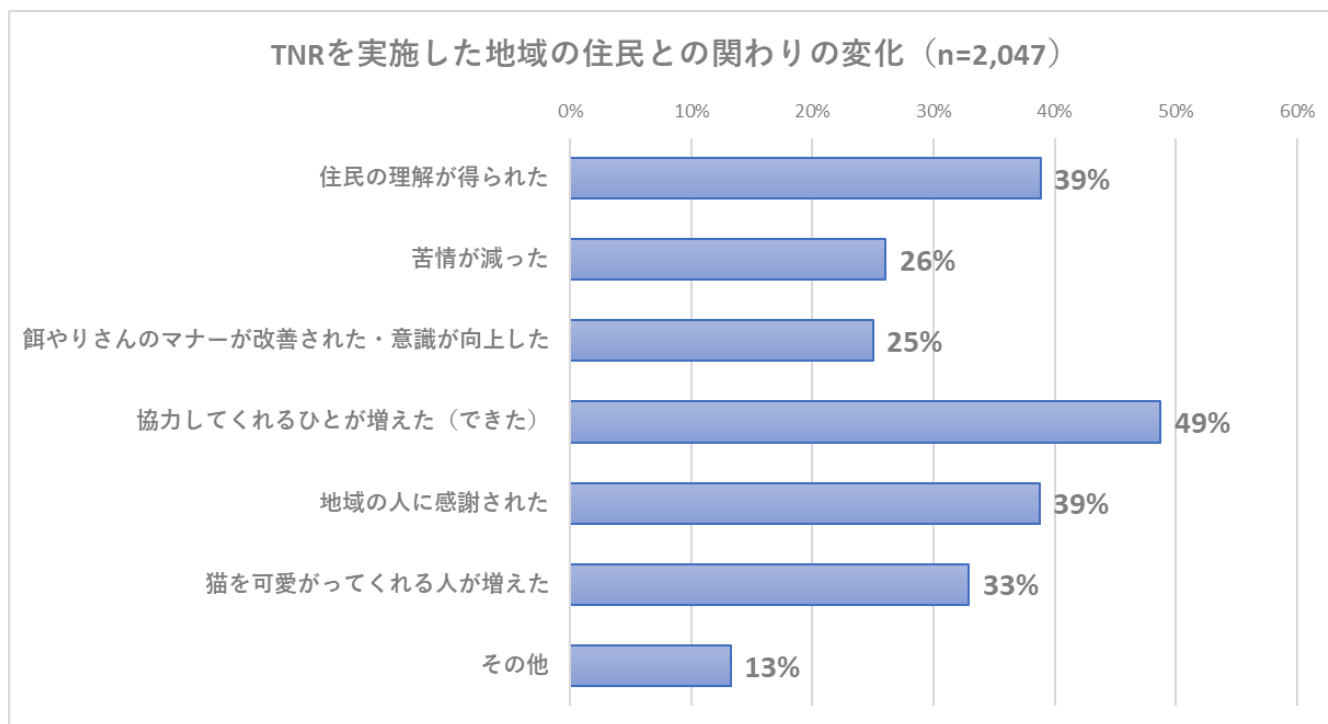
過去一年間に保護、里親探しをした猫の数（n=1,248）	票数	%
0 頭	182	13%
1～10 頭	777	62%
11～30 頭	204	16%
31～60 頭	52	5%
61～100 頭	19	1%
101～199 頭	9	1%
200 頭以上	1	1%



2024 年度は、1,248 名(61%)の協働ボランティアが 12,425 頭の猫の保護、里親探しを行った。

3-5. 地域や行政との関りについて

■地域住民との関わりの変化について(複数回答)



住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	803	39%
変わらない	1212	59%
悪くなった	32	2%

■活動地域の行政との関係について

活動地域の行政と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良い	736	36%
関りがない	1262	62%
悪い	49	2%

住民との関係においては、理解者や協力者が増え活動がやりやすくなったという声がある一方、一部住民による恫喝や嫌がらせを受けているという報告がある。また、「地域住民が猫のことに無関心」という報告も数多く寄せられた。行政との関係においても、「関りがない」との回答が62%にのぼっている。

個人で奮闘するボランティアにとって、地域の無理解・無関心が最大の障害である。飼い主のいない猫の問題は地域の問題であり、本来は行政と地域住民が協力して解決を図るもの。無関心は解決を遠のかせるだけではなく、猫の殺傷など虐待行為が発生しやすい土壌が生まれてしまう。街角で生きる猫が殺傷されるような地域が「住みよい街」であるはずはない。その場所に住む皆で考え、行動することが求められる。TNRは、決して猫好きが猫のためだけに取り組む活動ではないことを粘り強く啓発していきたい。

3-6. 飼い猫の捕獲について

2024 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	131	6%
いいえ	1916	94%

アンケート回答者 2,047 名のうち、131 名(6%)が飼い猫を捕獲したことがあったと回答。通常は、飼い猫と確認できた時点で手術はせずに元に戻すが、飼い猫に誤って不妊手術を行った事例が 1 件あった。

■誤って不妊手術を行った事例の詳細と解決方法

保健所からの連絡により発覚。「飼い猫が数日ぶりに帰ってくると手術されており、少しケガもしている」という内容で、猫の特徴から手術をしたオス猫に間違いないと判断。飼い主に謝罪する旨を申し出たが、その後、保健所から連絡はなかった。以降、捕獲の際には周知に努めている。

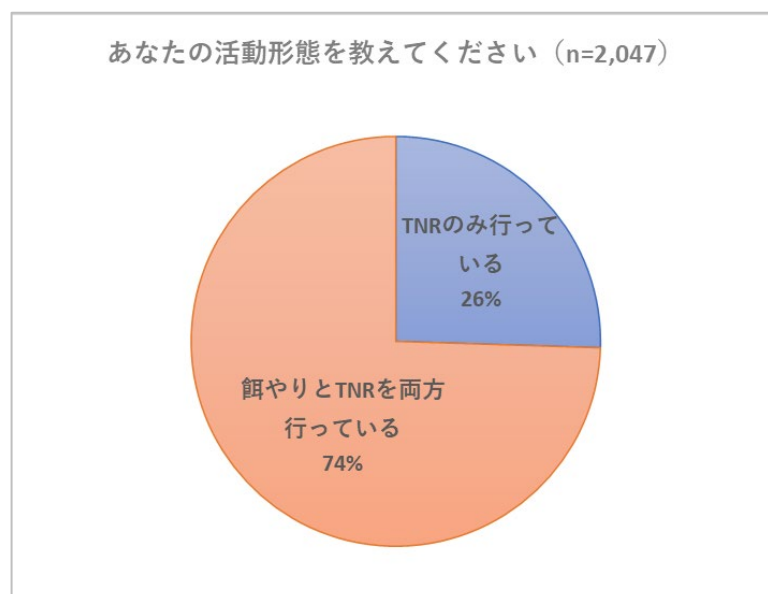
3-7. ボランティアの活動実態について

■第二種動物取扱業の届出について

「3-4. 猫の保護や里親探しの実態」で「猫の保護活動をしている」と回答した 1,248 名に第二種動物取扱業の届出有無について聞いた。

第二種動物取扱業の届出をしていますか	票数	%
はい	74	5.9%
いいえ	362	29.0%
届け出が必要な個人ではない	808	64.7%
未回答	4	0.3%

■活動形態について



「TNR のみ行っている」と回答した 522 名に TNR の依頼者について聞いたところ、餌やりさん、近隣住民、ブログの読者、行政、福祉関係者など多岐に渡っている。また、「餌やりと TNR を両方行っている」と回答した 1,525 名に、自分が餌やりをしていない猫に TNR を行ったことがあるか聞いたところ、741 名が「はい」と回答した。

他者からの依頼を受けて TNR を行っている個人ボランティアが多数いることが分かる。

■飼っている(保護している)猫の数

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
飼っていない	222	10.8%
1～5 頭	1040	50.8%
6～10 頭	465	22.7%
11～15 頭	167	8.2%
16～20 頭	67	3.3%
21～30 頭	49	2.4%
31～50 頭	32	1.6%
51～80 頭	5	0.2%

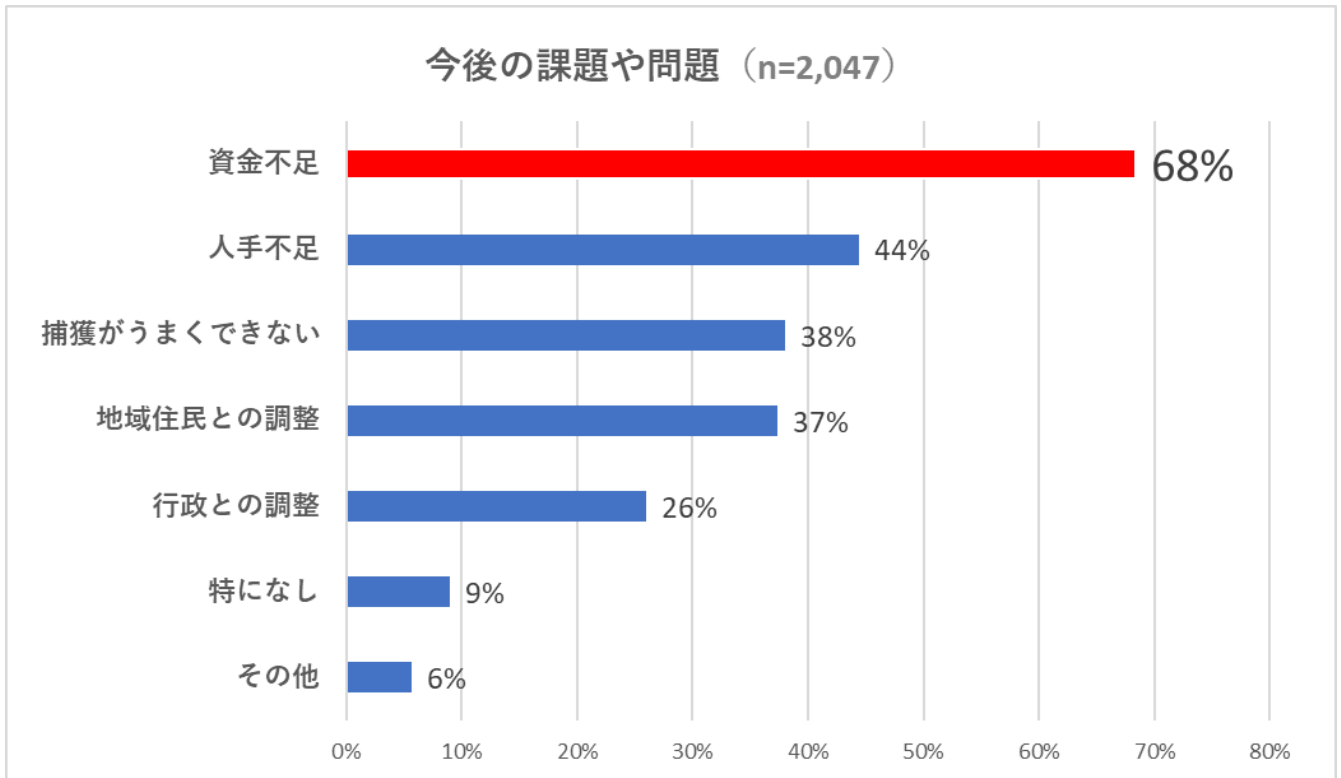
■餌やりをしている外猫の数

餌やりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0 頭	475	23.2%
1～5 頭	937	45.77%
6～10 頭	329	16.07%
11～15 頭	134	6.55%
16～20 頭	82	4.01%
21～30 頭	60	2.93%
31～50 頭	22	1.07%
51～80 頭	6	0.29%
81～100 頭	1	0.05%

飼っている(保護中を含む)猫の頭数については「1～5 頭」が 50.8%と最多だが、50 頭以上の猫を飼育または保護しているボランティアが 5 名もいた。昨今はボランティアが多頭飼育崩壊を引き起こす事例も増えており、2025 年に熊本のボランティア宅で 100 頭を超える猫の遺体が発見された事件は記憶に新しい。

現在、犬や猫を 10 頭以上保護する場合には非営利・個人であっても第二種動物取扱業の届出対象となる場合がある。動物愛護活動に対して厳しい目が向けられる今だからこそ、法令を遵守し活動内容をクリアに、といったことを心がけていきたい。

3-7. 今後の課題について（複数回答）



今回のアンケートでも、「資金不足」と「人手不足」を挙げたボランティアが多かった。

TNR 活動に対する地域の理解が進めば、ここに挙げられた課題の多くは解決する。これまでも再三にわたって訴えかけてきたが、飼い主のいない猫の問題は地域の問題である。個人ボランティアの良心に頼り、責任を押し付けているだけではいつまでたっても変わらない。行政だけではなく地域住民にも問題の本質を理解してもらえよう、今後も地道な働きかけを行っていく必要がある。

また、「その他」の回答では、ボランティア同士の人間関係や高齢の餌やりさんへの対応に苦慮しているとの声や、リターンできない猫の保護に関する悩みが多く寄せられていた。

4. ピックアップコメント

- 今年も皆様からのご支援でたくさんのさくらねこが誕生しました。最近では耳カットされた猫を見かけることが多くなり、その度にホッとします。早朝に出勤する際、以前は事故で亡くなっている子をたびたび見かけ心が痛んでいましたが、この一年はほとんど見かけません。少しずつ TNR の成果が出てきているのだと思います。サポーターの皆様に感謝致します。本当にありがとうございます。
- どこからともなく多頭でやってきた猫たち。どうぶつ基金のおかげで一代限りとなった彼らのお世話をしてもう 4 年。とうとう 2 頭だけになりましたが、精一杯できたのはご寄付くださった方々のおかげだと思います。本当にありがとうございます。
- 野良猫を無料で不妊手術することができました。おかげさまで TNR した猫は家のまわりでのんびり過ごしています。

- 自宅前に来る子たちをなんとかしたくて、1人でどうして良いかわからなくて困っていたところ、こちらを知り、一人じゃないんだと心強く思いました。迷いや悩みが尽きませんが、背中を押してもらっています。ありがとうございます。
- 地域の野良猫たちの手術でお世話になりました。今ではほとんど手術をしていない猫や子猫を産んだと言う話も聞かなくなるほどに TNR が進んでいます。当初は、餌やりさんに手術費用の負担をお願いしたり、ボランティアが自費で手術をしたり、大変苦しい時期でしたが、どうぶつ基金のチケットのお陰で不幸な命が生まれない地域となりました。市内のロードキルも四分の一に減ったのも、野良猫が少なくなっているのだと思います。これもひとえに、ご寄付いただいているサポーターの皆様のお陰です。物価上昇の中、本当にありがとうございます。
- ご寄付のおかげでたくさんの猫たちの手術が出来ます。5年前はこちらの制度を知らなかったので、全て自腹で TNR をしていました。TNR、地域猫たちのご飯代、治療費、ノミダニ薬代など、1人で個人活動をしているので本当に大変でした。無料不妊手術チケットのおかげで、今でも無理なくボランティアを続けていられるのだと思います。本当に有り難く思っています。
- 野良猫の望まない繁殖について、何よりも不妊手術が大切と知りながらも、捕獲方法や費用面の負担で悩んでいました。どうぶつ基金にご寄付いただいた皆様のおかげで、無料不妊手術チケットを使わせていただき、手術を実現することができました。素晴らしい事業に感謝しありません。
- 災害後、家に飢えや寒さで野良猫が来るようになりましたが、我が家も被災して細々と暮らすなか、避妊や餌の費用に悩んでおりました。今回どうぶつ基金というものがあると教えて頂き、負担が少なくなるかもしれないとほっとしています。寄付をして頂いている皆様、誠に有難うございます。心より感謝申し上げます！
- 都会から田舎に移住して、こんなにも捨て猫や野良猫が多いことに驚きました。道路で車に轢かれた猫を見たことも一度や二度ではありません。猫を愛するひとりとして、猫たちの幸せを願い、活動を続けていけるのは、この基金にご寄付をいただいているおひとりおひとりの後押しです。心から感謝を申し上げるとともに、これからも猫たちの幸せの手助けをどうぞよろしくお願いします。
- どうぶつ基金の無料不妊手術チケットを知ったのは最近ですが、おかげさまで一気にたくさんの猫をさくらねこにすることができるようになりました。今までほぼ自腹で地道に行っていたので、こんな素敵な制度があったのかと感動しました。田舎なので仲間は少ないですが、猫のためにこれからたくさん活用させていただきたいと思います。
- 感謝しかありません。どうぶつ基金の無料不妊手術チケットのおかげで、我が家周辺の子たちは、穏やかに暮らせています。

5. 総括

- 近年、ボランティアの多頭飼育崩壊が心配されていましたが、それが現実となったのが、熊本市で発覚した保護ボランティア宅での猫の大量死事件でした。動物愛護活動にますます厳しい視線が向けられるなか、日々真摯に活動に向き合っているボランティアの方は大変な思いをしていることと思います。TNR 活動をしていると、さまざまな理由から現場にリターンできない猫が必ず出てきます。そういった保護に関する課題や不安も多くのボランティアから寄せられていました。

殺処分ゼロを達成するためには、TNR と保護・譲渡をバランスよく行っていく必要がありますが、保護活動には、猫を保護する場所、譲渡までにかかる飼育費用(フード代や医療費等)、猫をお世話するための時間など大きな負担が発生します。動物愛護に携わっているからこそ、自分の限界を見極める勇気が求められます。

今回、TNR だけではなく保護活動も行っていると回答したボランティアは 1,248 名、そのうち、第二種動物取扱業の届出を完了している、もしくは届出の対象ではないことが明確なボランティアは 882 名でした。残る 366 名は届出の対象となる可能性があり、社会の懸念を払拭して活動の透明性を図るためにも、自分が対象であるかどうかの確認をしていただきたいと思います。

- 今回のアンケートで初めて活動地域の行政との関係性について聞いたところ、「関りがない」との回答が 62%に上りました。94%のボランティアが、行政から地域猫活動地域として公式に認められていない地域で活動していることを考えると納得の結果ですが、本来、飼い主のいない猫の問題は行政が主体的に取り組むべき課題です。また、行政とボランティアが対立ではなく協働することで、地域の TNR は加速度的に進みます。

どの地域でも「殺処分やむなし」という声は根強くありますが、これまでの殺処分数の推移と TNR 活動の広がりを見ていくと、飼い主のいない猫の問題は殺処分で解決しないことは明らかです。知識がなく理解が進まない行政がまだまだ多いものの、ここ数年で理解ある行政、主体的に取り組む行政は確実に増えています。この機会を逃さず、行政への働きかけを粘り強く続けていくことが必要です。

- 多くのボランティアの方から「高齢の餌やりさんにも根気強く話をしたら、手術の重要性を理解してくれた」「不妊手術をしたことで、餌をやるのが悪いと言っていた住民からも理解を得ることができた」などの報告がありました。TNR には餌やりさんの協力が欠かせません。一方的に手術をしない餌やりさんを責める風潮が高まっていますが、それぞれができることをできる範囲でやっていくことが大切ではないでしょうか。どうぶつ基金の無料不妊手術チケットはそのためにあります。マナーの悪い餌やりは改善し、手術の重要性が分からない方にはそれを根気強く説明する。誰かを責めたところで問題は解決しません。ともに命を慈しむ者として対立しあうのではなく前に進んでいきたいと強く感じました。